

「下北半島歩き旅」

平成 28 年 5 月 6 日～5 月 13 日（6 泊 7 日）

（1570） F/T

○ 歩き旅への想い

下北半島を一人で歩いてみたい。

まだ見ぬ本州最北端の地 “下北半島” 奇祭イタコの口寄せで知られる霊場恐山

マグロの一本釣りで有名になった大間 奇岩怪石の景勝地仏ヶ浦

数年前に竜飛岬と青森市内には車で旅をしたことがある。その時も一人旅であった。

車の旅と歩き旅では旅情が違う。歩くことで知る土地の空気・風、聞こえてくる波の音、野鳥のさえずり、目にする住民の姿、音のない静寂の時間・・・それらをこの目で見、耳で聞き、肌で感じてみたい。そしてあわよくば住民との交流があるかもしれない。孤独かもしれない。しかし日常の生活から離れ、一人知らない土地を歩く。

得られる貴重な時間と体験。そんなことが歩き旅に誘うのだろうか。

同僚と退職後の夢を語り合った時のこと、私は“知らない町を歩いてみたい、四国遍路に行きたい。”と言った。遍路が叶った後、次はどこを歩こうかと考えた。

竜飛岬での不完全燃焼の体験が青森、下北半島の歩き旅へと背中を押した。

下北半島の六ヶ所村、青春時代この村の出身者と知り合いになった時期がある。

今は原子力村で知られるようになった北端の過疎の村。そんなことも下北を選んだ一つの理由かもしれない。

○ 行程

旅の期間は1週間とした。コースは下北半島の入り口 野辺地町までは高速バス、新幹線、在来線を乗り継いで行くことにした。

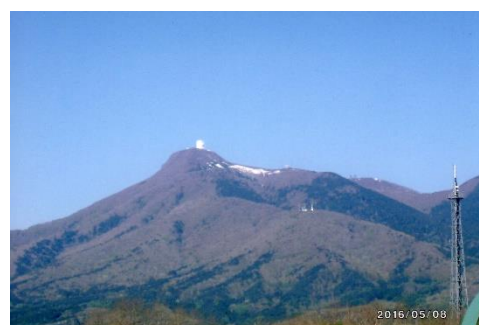
- ① 野辺地町から横浜町を通りむつ市へ
- ② むつ市から恐山、山中の薬研温泉郷
- ③ 旧大畑町から津軽海峡を見ながら大間崎へ
- ④ 大間から福浦へ
- ⑤ 福浦から仏ヶ浦経由脇野沢へ
- ⑥ 脇野沢からむつ市まで。



むつ湾と下北半島（野辺地町）



菜の花畑（横浜町）



下北半島最高峰 釜臥山 878m



宇曽利山湖

下北半島を反時計回りで歩く計画にした。距離数等の関係で歩き通せない場合はバスや船も利用することとした。

総距離数約250km

○ 道中メモ

◆ **1日目**

夜行バスを利用したので寝不足のまま陸奥湾沿いに北上、菜の花の町よこはまで満開の

菜の花畑を見る。今にも雨が降りそうな黒い雲が気がかり。強い風にくくも立ち並ぶ風力発電の羽が勢いよく回っているのが印象的。国道の左側は陸奥湾、右方は丘陵地、その奥約20kmの位置には太平洋に面した六ヶ所村があるはず。

◆ **2日目**

山中の恐山を見学する。大きな宇曾利山湖の湖畔に忽然と出現した霊場に息をのむ。荒涼とした岩場薄黄色に変色した水面 勢いよくカラカラ回る無数の風車 湖畔からの突風に舞上がる砂塵 立派な寺院と相まってまさに神秘的な世界であった。

◆ **3日目**

前半はのどかな農村地区を歩く。後半、津軽海峡を右に見ながら小高い海岸沿いを歩く。眼下の岩場で海草採りに夢中の住民の姿、家々の前で海草の乾燥作業に精を出す人々。

夕食で食べた本場・大間のマグロ(?)の味。民宿の料理とは思えない豪華な夕食に感激する。

◆ **4日目**

建設中の大間原発の脇を歩く。静まり返った漁村、斜面の雑木林にひっそり咲くシラネアオイを探しながら歩く。夜になって雨・風が強くなる。明日乗る予定の船が欠航にならないか心配する。

◆ **5日目**

船は欠航。悪天候のため長時間休みなく山越えをすることになった。雨風に打たれ一人黙々と歩いているとトラックの運転手が声をかけ乗せてくれた。本当に助かった。

人の情けが身に染みた。楽しみにしていた仏ヶ浦の観光はできなかったが、今回の旅で一番の思い出になった。

◆ **6日目**

反対方向から走行してきた車が私の真横で横転する事故がおきた。居眠りが原因であ



恐山の境内にて



賽の河原(恐山)



水子供養と風車(恐山)



山村の小さな神社(大畑)

った。のんびりした旅においても注意は必要。
大湊では自衛隊の基地、停泊していた艦船、旧会津藩土上陸の地記念碑が印象に残った。

夕刻、初日に見た下北半島最高峰釜臥山の麓に戻り、旅の終わりを実感する。

可能ならばもっと旅を続けたいと思うがそうもいかない。

明日は来たコースを逆に新潟に戻るだけ。

○ 感想

- 国道歩きがほとんど。交通量が多かったのは野辺地町からむつ市の間、大畑から大間の間のみ。あとは交通量が少ない。山中の道路及び佐井村から脇野沢間はほとんど車は通らない。もちろん歩いている旅行者は一人もいない。
- 観光地は連休後とあって思ったほど観光客の姿はなかった。特に大間崎には夕方到着したので数人しかいなかった。そのせいか、土産店での売込みの懸命さには驚かされた。
- 宿はすべて民宿にした。“感”で予約したのでやはり当たりハズレがあり、これも旅の楽しみ(?)の一つ。
- 人との交流は少なかったが、これは人の少ない土地を一人歩く旅のこと、しかたない。

話をしてもらえなかったのか理解してもらえないこともあった。

悪天候で困っていた時、同乗させてくれたトラックの運転手。思いやりが心にしみた。

- 時期的には暑くもなく、寒くもなく、あまり汗をかかずに済んだ。但し5日目の雨・風には参った。寒さに手がかじかんでしまった。
- 見知らぬ土地を一人歩く。陸奥湾沿いの道、峠越え、のどかな農村、そして津軽海峡と遙か遠く沖合に見える北海道、静かな漁村、風を受け路傍の草花を見、通りかかる集落を眺め、住民の様子を垣間見る。

日常の生活を忘れ、一人想いに更けながら歩く。そんな旅がまた出来た。



津軽海峡（風間浦村）



本州最北端の地（大間崎）



むつ湾沿いの道（川内町）

備考

	5/7 曇り	5/8 晴れ	5/9 晴れ	5/1 曇り	5/11 雨	5/12 曇り
移動距離	56km	35km	44km	30km	42km	43km
歩行距離	16km	24km	26km	28km	32km	34km
歩行数	27,712 歩	38,964 歩	39,507 歩	40,335 歩	41,097 歩	44,827 歩
バス乗車時間	1 時間	20 分	25 分	8 分	20 分	25 分

※ 5/11 はトラックに同乗した時間

(おわり)